

令和 8 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月鳥類調査 速報

●実施状況

令和 8 年 5 月 8 日に鳥類調査を実施した。調査当日は小潮で、干潮が 14:43(47cm)、満潮は 7:16(157cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
調査時刻	9:37-11:00	13:23-14:43	11:34-12:50
調査時間(分)	83	80	76
天候	晴	曇	曇
気温(°C)	23.3	24.8	24.6
風向	南	南	南
風速(m/sec)	1.0	4.5	2.5
備考	調査開始時は潮がやや高く、沖の方は風がやや強かった。	最干潮前から干潟は干出していた。	鳥の島の観察中、東京アクトシンフォニーが稼働していた。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位 3 種	カワウ(441 羽) ユリカモメ(103 羽) ウミネコ(46 羽)	カワウ(24 羽) ユリカモメ(16 羽) キョウジョシギ(7 羽)	カワウ(1030 羽) アオサギ(20 羽) イソシギ(14 羽)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・オオソリハシシギ、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、コアシサシ、コサギ等、重要種として 16 種を確認。 ・シギ・チドリ類 9 種が干潟や護岸で確認された。 ・干潟でカワウとカモメ類が休息、サギ類とウミネコが採餌していた。 ・海上をカンムリカイツブリが遊泳、コアシサシが鳴きながら飛翔。 ・ミサゴが海上で魚を捕えた後、杭の上で採餌。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ムナグロ、シロチドリ、キョウジョシギ、ウミネコ、コサギ、ハヤブサ等、重要種として 13 種を確認。 ・シギ・チドリ類は 7 種で、シロチドリは中央部の干潟で採餌、他の種は護岸で確認された。ムナグロは鳴き声のみ。 ・干潟を利用する鳥は少なく、カワウの小群が休息していたほか、サギ類とウミネコが水際で主に採餌していた。 ・ミサゴが流木にとまり休息。チョウゲンボウとハヤブサが上空を飛翔。 ・コアシサシは確認されなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キョウジョシギ、ウミネコ、コサギ等、重要種として 9 種を確認。 ・第六台場と鳥の島でカワウが営巣中。巣数は第六台場 101 巣、鳥の島 25 巣で合計 126 巣。巣内に雛が見られたほか、営巣地や岩礁で幼鳥を多く確認。個体数は 1030 羽で、昨年同時期より減少した。 ・サギ類はアオサギとコサギの 2 種で、営巣は確認されなかった。 ・シギ・チドリ類は 5 種で、鳥の島と、お台場海浜公園の護岸で確認された。 ・オオバンがお台場海浜公園の噴水施設で採餌。 ・トビ 8 羽が上空を飛翔。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	令和8年 5月										重要種 選定基準					
				葛西人工渚(東なぎさ)			お台場海浜公園							3地点 合計	文化財 保護法	種の*1 保存法	環境省*2 RL2026	東京都*3 RL2023 (区部)	
				範囲 内	沖合	合計	森ヶ崎の鼻	第六 台場	鳥の 島	公園 側	合計								
1	カモ	カモ	カルガモ	2		2													
2	ツル	クイナ	オオバン																CR
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	3		3													留
4	チドリ	ミヤコドリ	ミヤコドリ	7		7													VU
5		チドリ	ムナグロ																VU
6			コチドリ	3		3													CR
7			シロチドリ																CR
8		シギ	チュウシヤクシギ	29		29													VU
9			オオソリハシシギ	1		1													EN
10			キョウジョシギ	4		4													NT
11			トウネン	2		2													VU
12			ハマシギ	9		9													VU
13			イソシギ	2		2													VU
14			キアシシギ	2		2													VU
15		カモメ	ユリカモメ	98	5	103													
16			ウミネコ	39	7	46													VU
17			カモメ	1		1													留
18			セグロカモメ	3		3													
19			オオセグロカモメ	4		4													EN
20			コアジサシ	6		6													EN
21	カツオドリ	ウ	ウミウ			1													
22			カワウ	384	57	441													
23	ペリカン	サギ	アオサギ	5		5													
24			ダイサギ	19		19													NT
25			コサギ	17		17													VU
26	タカ	ミサゴ	ミサゴ	1		1													EN
27		タカ	トビ																NT
28	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ																EN
29			ハヤブサ																EN
30	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ																国内
計9目13科30種				22種	4種	23種	18種	5種	8種	10種	13種	30種	0種	1種	11種	21種			

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第8版」(日本鳥学会, 2024)に従った。

*1 文化財保護法：特天=特別天然記念物

*2 種の保存法：国際=国際希少野生動物植物種、国内=国内希少野生動物植物種

*3 環境省 第5次レッドリスト(2026)：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧I B類、VU=絶滅危惧II類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足

*4 東京都レッドデータブック2023(区部)2023年版：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧I B類、VU=絶滅危惧II類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟はまだ狭く、調査中に徐々に広がっていった。



西側の地点より南西方向を見る



○出現種(シギ・チドリ類)

9 種のシギ・チドリ類が確認され、主に干潟で採餌、または石積み護岸の周りで休息していた。確認種はすべて東京都レッドデータブックに掲載されており、加えて環境省レッドリストでオオソリハシシギとハマシギが絶滅危惧Ⅱ類(VU)、キョウジョシギとトウネンが準絶滅危惧(NT)に指定されている。



○出現種(コアシサシ)

海上を飛翔する 6 羽が確認された。本種は環境省レッドリストと東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



○出現種(カンムリカイツブリ)

海上を泳ぐ 3 羽が確認された。本種は東京都レッドデータブックで留意種に指定されている。



○干潟利用状況

干潟でカワウとカモメ類の群れが休息し、サギ類とウミネコが採餌していた。カモメ類のうち、ウミネコは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで留意種に、オオセグロカモメは環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。干潟で休息していたセグロカモメ 3 羽のうち 1 羽は、ニシセグロカモメの亜種ホイグリシカモメとの交雑または中間個体群と推定される。



干潟で採餌するダイサギ(矢印)とコサギ



オオセグロカモメとセグロカモメ(矢印)

<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最大干潮時刻で、干潟が干出していた。



○出現種(シギ・チドリ類)

7種のシギ・チドリ類が確認された。このうちムナグロは環境省レッドリストと東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、シロチドリは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。



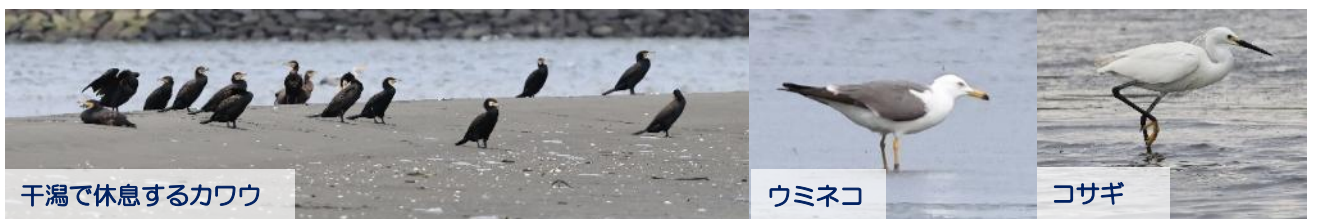
○出現種(猛禽類)

ミサゴ 1羽が流木にとまって休息、チョウゲンボウ 1羽が上空を飛翔、ハヤブサ 1羽が獲物を持って飛翔していた。3種とも東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。加えてハヤブサは種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで準絶滅危惧種(NT)に指定されている。



○干潟利用状況

カワウが干潟で休息、サギ類とウミネコが水際で主に採餌していた。干潟を利用する個体数は少なく、もっとも多いカワウが20羽、次いでコサギ5羽、ウミネコ4羽等の順であった。コアジサシは5月の調査で確認されなかったが、リトルターンプロジェクトのブログによれば、初認は4月27日の9羽で、4月29日にも2羽が確認されている。<https://littletern.hatenablog.com/entry/2026/04/27/001512>



<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣が続いている。



○出現種(カワウ)

第六台場と鳥の島で営巣しており、合計 1030 羽が確認された。営巣数は第六台場で 101 巣、鳥の島で 25 巣、合計 126 巣であった。第六台場や鳥の島周辺では巣立った幼鳥が確認された。巣内には大きく育った雛が見られ、雛の鳴き声も聞かれたが、使われていない古巣が目立ち、繁殖期の終盤と考えられた。



巣内の雛

鳥の島で休息する幼鳥

○出現種(サギ類)

2 種が確認された。アオサギは第六台場や鳥の島、お台場海浜公園で確認され、噴水施設の構造物で休息する様子も見られた。コサギは 1 羽のみで、上空を飛翔するのが確認された。コサギは環境省レッドリストと東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。

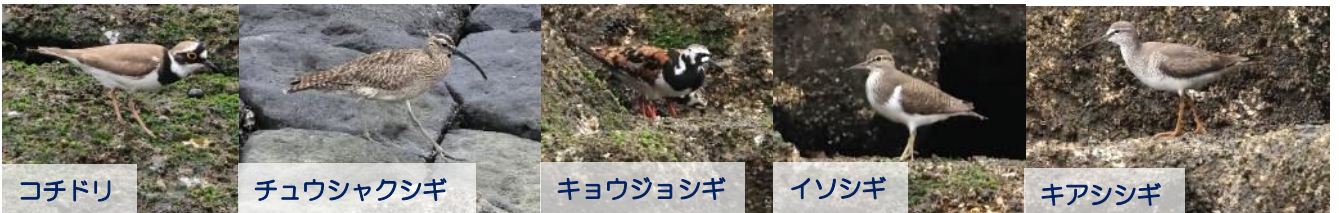


アオサギ

コサギ

○出現種(シギ・チドリ類)

鳥の島とお台場海浜公園で 5 種が確認され、護岸で採餌・休息していた。いずれの種も、鳥の島のように立ち入り禁止の場所、または人の往来が少ない場所を選んで利用していた。



コチドリ

チュウシャクシギ

キョウジョシギ

イロシギ

キアシシギ

○出現種(オオバン)

噴水施設付近で採餌していた。本種は東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。



○出現種(トビ)

合計 8 羽で、第六台場に多く見られた。本種は東京都レッドデータブックで準絶滅危惧種(NT)に指定されている。



<その他>

砂町運河では構造物やその周辺でウミネコの成鳥 28羽が確認され、そのうち 23羽が営巢中と考えられた。巣はすべて構造物上にあった。巣内を直接確認することは出来なかったが、行動などから抱卵中と考えられる。この他に周辺でカワウ 40羽、イソシギ 1羽が確認され、隣接する東京夢の島マリーナの堤防ではキョウジョシギ 37羽が休息していた。



ウミネコが営巢する構造物



抱卵中と思われるウミネコ



東京夢の島マリーナのキョウジョシギ

<トピックス>

-環境省のレッドリスト改訂-

環境省の第 5 次レッドリストおよびレッドデータブックが 2026 年 3 月に公表された。鳥類の掲載種は 170 種 (30 種追加され、14 種が不掲載) となり、各カテゴリーに含まれる種にも改訂が加えられた。

5 月の調査で記録された鳥類の中で、環境省レッドリストに掲載されたのは 11 種である。このうちランクアップまたは今回初めてリスト入りしたのは以下の 8 種であった。国内に広く分布し普通に見られる鳥とされていたコサギやウミネコが、個体数や繁殖地の減少等の理由から新たに追加された。

ムナグロ 不掲載→VU	ハマシギ NT→VU	コアジサシ VU→EN
キョウジョシギ 不掲載→NT	ウミネコ 不掲載→VU	コサギ 不掲載→VU
トウネン 不掲載→NT	オオセグロカモメ NT→EN	

※矢印は第 4 次レッドリスト(環境省レッドリスト 2020)から第 5 次レッドリストへの変化を示す。

一方、危険度が下がった種もあり、5 月の確認種では以下の 2 種が該当する。

ハヤブサ VU→NT	ミサゴ NT→不掲載
------------	------------